

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Brighten School of Special Education			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 6日		～	2025年 2月 22日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51名	(回答者数)	44名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 6日		～	2025年 2月 22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の中にレジジョエミリアアプローチを取り入れている。 (イタリア発祥の教育方法) ※レジジョエミリアアプローチを取り入れることで ・子ども達が主体的に学び、個性や才能を伸ばすことができる。 ・興味のあることに取り組むことで、好奇心を満ちし、探究心や自主性が育まれる。 ・協調性や集中力を養うことができる。 ・創造力や表現力が育まれる。	レジジョエミリアの理念に基づき、お子様の個性を全て受け入れ、尊重している。 お子様の興味や関心を注意深く観察し、それを活動に取り入れ、楽しい遊びの中で主体的に学んでいけるようにしている。 主体的に学ぶ中で、自分の気持ちや意見を伝えること、お友だちの気持ちや意見にも耳を傾け、尊重することができるように支援し、「自分を大切に」「お友だちも大切に」ことができるように支援している。	自分で選ぶ、考えるという経験をより多くできるようにしていきたい。 レジジョエミリアの活動の中で社会性、認知面、運動、指先を使うこと、身辺自立に向けた取り組みをバランスよく取り入れていきたい。 「何をするのか」という見通しを持って行動できるようにお子様一人ひとりの特性や学び方、情報の取り方を理解しお子様一人ひとりに合った伝え方、教え方を行っていくことを更に充実させたい。
2	お子様一人ひとりの支援方法としてABA(応用行動分析)を取り入れている。 ※ABAを取り入れることで ・コミュニケーション能力を向上させることができる。 ・問題行動が消去され、その代わりに好ましい行動が増える。 ・こだわりが減り、好きなものが増えていく。	予防支援(事前に行動を教え、エラーをしないようにする)を大切にしている。 正しいコミュニケーション方法を場面に合わせて教えている。 怒る、注意することで、問題行動を正していくのではなく褒める、成功体験を積むことで、好ましい行動が増えていくようにしている。 問題行動に対しては「何が原因で起きているのか」「問題行動をしたことで、どんな結果を得たか」をチームで検証し、問題行動を消去する支援を行っている。	好ましい行動を増やしていく為に、成功体験を更に多く積めるようにしていきたい。 スモールステップで支援を行うことを徹底していきたい。
3	インリアルアプローチ(言語コミュニケーションのアプローチ)を取り入れている。 ※インリアルアプローチを取り入れることで ・お子様の「伝えたい気持ち」を育て、ことばやコミュニケーション能力を育てていくことができる。 ・お子様が楽しい遊びの中で、ことばやコミュニケーション方法を学んでいくことができる。	子どもの視点に立ち、感じていること・考えていることを尊重し、その気持ちを受け入れるようにしている。 「共に楽しむ」「共に感じる」という姿勢を持ち、接するようになっている。 お子様の自発的な行動を尊重し、お子様が主導権を持ち、遊ぶことができるようにしている。	お子様の発達段階を見極めること、信頼関係を築いたうえで支援をすることを大切にしていきたい。 お子様一人ひとりのリズムを大切に、先回りせずに対処や、声のトーン等にも気を配りながら支援を提供したい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者支援に力を入れたいと考え、保護者様からのご相談に丁寧に対応することを心がけており、ご家庭での支援方法などのアドバイスも行っているが、全ての保護者様に対して、その対応ができていない部分がある。また保護者学習会などもまだ開催出来ない。 保護者様への支援の充実を更に図りたい。	面談を行ったり、療育後にはフィードバックを行っているが、フィードバックに関しては時間が限られている為、保護者様の思いを十分に聞き取れていない。 いつでも面談や相談に乗ることができるということの発信が不十分。	日頃から保護者様と細目にコミュニケーションをとることを更に大切にしていきたい。 フィードバックの時間は限られている為、ご相談事がある際はいつでも面談等を行い、話を聞くことができるという事を積極的に発信していきたい。 保護者様の気持ちに寄り添い、信頼関係を築くことをより大切にしたい。 家庭環境も考慮しながら、支援を行っていきたい。
2	事故対応、災害時の対応等、各種マニュアルの整備はできており、研修や訓練も実施しているが、実際に緊急事態が起こった際によりスムーズに対応できるように体制を整える必要があると感じている。	マニュアル等は情報量が多い為、実際に対応する際にケースによっては、スムーズな対応ができない可能性も考えられる。	研修や訓練の内容の充実を図る。 定期的なマニュアル等の見直しや検証を行う。 お子様への安全指導にも力を入れていきたい。